



新たな一歩を踏み出す若者たち



新年度を迎え、ことしもまた、進学や就職などをする多くの人たちにとって新しい生活が始まります。今回は、この春に学校を卒業して新たな一歩を踏み出す若者に、学生生活や将来のこと、ふるさと佐世保への思いなどについてお聞きしました。

長崎ゆめ総体の優勝は 今までにない最高の喜び

昨年夏の全国高校総体「2003年長崎ゆめ総体」では、男子ソフトボール競技で佐世保西高校ソフトボール部が見事優勝しました。平山さんと内野さんは、その優勝の原動力となった選手たちです。

平山さんはチームの主将で4番打者、守備はキャッチャー。内野さんがエースピッチャーでした。

長崎ゆめ総体優勝を目指して

平山さんと内野さんは、それぞれ小学生のときにソフトボールを始めましたが、中学校（平山さんが中里中、内野さんが大野中）ではソフト

ボール部がなかったため、野球部に所属していません。佐世保西高校に入学したとき、ソフトボール部の先輩や先輩から「再来年、長崎県で全国高校総体が開催されるから」と勧誘を受け、それぞれ入部を決めたそうです。

「小、中学生のときは、比べものにならないくらい練習は厳しかったです」と平山さん。

「小学生のときにピッチャーをしていましたが、高校では直球だけでは通用しないので、変化球を学ばなければなりません。ボールの握りや手首の使い方などを先輩や先生から教わったり、自分でも研究したりして努力しました」と内野さん。2人は、高校1年生のときからバッテリーを組み、長崎ゆめ総体優勝を目標に練習を重ねました。



▶右から内野さん、平山さん

佐世保西高校ソフトボール部出身

ひら うち 平 内
やま の 山 野
やすし 靖 さん
けん た 健 太 さん



長崎ゆめ総体の決勝戦に臨む選手たち（西彼杵郡時津町）

応援してくれた皆さんの声援がうれしかった決勝戦

長崎ゆめ総体の優勝について尋ねると、「長崎ゆめ総体前の昨年7月の九州大会では、準決勝で悔いが残る負け方をしたので、それからの1カ月はそれまで以上に気合を入れて練習しました。特に暑さに負けないよう、十分走り込みをして体を鍛えました。本番では、まさか優勝できるとは思いませんでした。決勝戦で勝ったときは、佐世保から応援に来てくれた方や、地元の皆さんの歓声がすくて、ジーンとしました」と平山さん。



（写真上）力投する内野さん



（写真右）選手に声を掛ける平山さん

内野さんは、「初戦はプレッシャーもありましたが、どこにも負けない練習をしてきたという気持ちと、一つひとつの試合を勝っていくことで自信が付き、良い結果を出すことができました。優勝の瞬間は、今までにない最高の喜びでした」と話してくれました。



優勝が決まった瞬間抱き合う選手たち

チームメイトは最高の仲間

高校生活ではほとんど毎日、部活動を行ってきた2人ですが、補習やテストなどで練習時間が取れないこともあるため、短い時間でも集中して練習するよう心掛けていたそうです。

主将としてチームを引っ張ってきた平山さんは、部活動で一緒だったチームメイトについて、「普段から仲が良いけれど、グラウンドの中では敵しいことも言い合える最高の仲間たちです」と話しました。

高校日本代表としてオーストラリアでプレー

平山さんと内野さんは、これまでの実績が認められ、ことし1月、ソフトボールの高校日本代表の選手として、オーストラリアに遠征しました。

オーストラリア代表の高校生との親善試合の結果は3勝6敗と、世界の強豪オーストラリアを相手に善戦できたことが、新たな自信になったそうです。

大都会ではなく、自然豊かなふるさと佐世保が一番

佐世保については、「大都会ではなく、街がきれいでごみごみしていない、自然豊かな佐世保が一番です」と平山さん。

内野さんは、「電車やバスの便数ももっと多かったら便利だと思えます。でも、生まれてからずっと佐世保に住んでいますので、自分にとって一番いい街です。このままいいところを残してほしいと思います」と話しました。

4月からは、平山さんは福岡大学に進学。内野さんは市内の専門学校に通い公務員を目指すそうです。

2人とも「今後もソフトボールを続け、さらにレベルアップしたい」と力強く語ってくれました。